

換言せば唯一絶對の宗教は遂に最後を成せり、余等宿植甚厚の至す所にや、此難値の宗教に出會し難生の末法に遭遇せしは佛天の加護に非ずして何ぞ、幸なる哉。唯一絶對の宗教時代は唯一絶對の宗教を要求せり、社界は時と共に複雑に、人心は彌々沒道義に趨りつゝある今日の時勢の推移を察し、講談的説教或は學者氣取の演説が腐敗せる社界を教化し指導する事を得むや、知らずや義務的の説教演説は社界を益する事貧弱なるを。事實宗教の前途を憂ふる者、國家の安寧を計る者、宜しく宗教の撰擇に注目し、弘教の時期を齟齬せしめず、不安懊惱に包括せられし思想界を廓清し、混沌たる宗教界をして大刷新なさざる可らず、現今の時勢は日蓮主義勃興を益々顯著ならしめたり。何とあれば時代の要求にして革新的面目の躍如たるあればあり。

請ふ天下の憂士、余の微衷を愍み以て此大信念を扶育せしめられん事を切に希望して止まず。

未法既に五百年 邪教邪軍は押寄せり

永世の闇の夢醒めて 昨日に變る今日は唯  
正法護持の旗を立て 折伏逆化の鋒を取り  
獅子奮進の勇起こし 又向ふ敵を討ち鎮め  
一佛來に歸するまで ともに立たなん軍場いくまは

## 意義ある生活

正 己

吾等は如何に生くべきかの問題は、最近に至つて著るしく真面目に考へられる様になつて來た。徒らに文字を弄する思索的遊戯に止らず、實際的に深き考察と強烈な要求となつて現はれて來た。生さんとする心！ 此れは人間に限らず動物の共性有である。で人間も亦如何にもして生さんとする欲望を有して居る、然し此の欲望が何故生じて來たかは如何なる宗教家と雖も知り得ざる所である。が兎に角己に生さんとする欲望を有する以上、生さると云ふ事が目的であり又生さる事に大なる價值があるのである。

生きる！ 實に大なる意義があり大なる價值がある。然し其生活が自由のない強ひられた生活であるからば意義あるとは云ひ得られない。自由のない生活！ 強ひられた生活！ それは只生きた機械生きた製糞器に過ぎない。自由！！ 眞に吾人は自由に依てのみ眞の意義ある生活は爲し得らるゝのである。自由の生活とは何か？ 自己の主義理想に生きる、是れ自由の生活であり又隨て意義ある生活である。若し自己の主義自己の理想の下に生活して行く人があるならば、其人は如何なる逆境にあるとも、如何に敗殘の淵に沈み、如何に悲惨の一生を送るとも、そは意義ある生活を爲し得た人である。此れに反し設ひ如何なる高位高官にあり、名譽權勢並ぶものかさに到るとも、そが自己の主義理想に反したる虚偽の生活であるならば、そは何等の價值もない無意義の生活である。吾人は斯る無意義ある虚偽の生活は欲しくない。自我意識に目覺めたる吾人は、自己の擴張發展を計る爲めには何等名譽權勢を省みない。宗祖の

一千町の良田をも顧り見ず、如何なる迫害をも意とせず自己の主義即ち法華經の宣傳にベストを盡されし一事は、實に吾人の好摸範とす可きである。自己の信ずる道を直進するには、幾多の障礙が横たはり、幾多の争闘か演じられる。然し吾人は其れを恐れぬ。飽迄目的に向つて突進する。只恐れるのは虚偽の生活である。

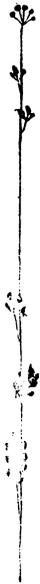
自由生活！ 換言すれば自己に生きる、實に是れが吾人の第一義生活である。今茲に自由と云ふは我儘や放縱を意味するものでない。眞の自由のは外部の束縛や壓迫を除く事に由つて得られるものでない。眞の自由は内心からの痛烈な自我實現の開放の道を行くに依つて得らるゝのである。即ち眞の宗教的生活にのみ眞の自由生活は得られるのである。あらゆる舊來の因襲と誤られたる既成的觀念を打破し、あらゆる虚偽と罪惡とに反抗し眞理と公明の境地に立つて自己の主義主張の儘に生きる、是れ眞の自由生活である。己が心の戸を開いた信從生活、自己に與られた使命に忠實ある

生活、此の生活こそ真に意義あり價值ある生活である。

大難四ヶ度小難數限りなき聖祖の一生は實に意義なる生活であつた。其の門下たる吾人は其跡を繼承してそが理想の實現に力む可きである。之れ吾人に與へられたる使命である。故に此の使命に忠實なる生活こそ吾人の眞の望む處である。然し自己の使命を自覺した上の生活でなければ駄目である。境遇や週圍から強ひられて、止を得ず理想實現とか一天四海とか叫ぶ、斯かる生活は如何に立派であり華やかであるにもせよ、そは虚偽の生活である。眞の意義ある生活とは云はれまい。自覺した上の生活こそ眞に意義ある生活である。

自由に生きよ!! 自己に生きよ!!

眞に吾人は自由の上に建設された主義に生きねばならぬ。



小さな愛國心から

平和を望む人へ

猪口古童

戦争と平和は走馬燈の如うかものではなからうか。輒ち科學の進歩せると富國なると愛國心の最も至誠であるに因つて、乃ち其の常軌を逸して悪用された場合には戦争と現はれ、或る根本の意志に接することを得てそを轉用した場合は其處に一大平和を見る事が出来やうと思ふ。現今の社會に於いて、若し經濟關係を度外視するならば万事休止の状態となるであらう。科學を尊重しなかつたら世は暗黒とあるであらう。愛國觀念を取り去つたなら、國家は定めて危険であらう、由來吾國は金歐無缺と歎へられ、四面還海の地を占めて居つたがために天下頗る泰平で、世界禍亂の中心から遠ざかることを得たのであつた。しかし今日に至つては科學進歩から得た諸般の文明は勿論、彼